

教員名

内田 遼介・大島 秀武

企画名

ゴルフ場施設を利用した地域活性化に向けたニュースポーツの提案

イベント企画型

企業



A. 谷光高棟(有馬カンツリー倶楽部)による講演



B. 学内でのスナッグゴルフ体験①



C. 学内でのスナッグゴルフ体験②



D. ゴルフ場で説明を受ける学生の様子



E. ゴルフ場が保有する施設の見学



F. コースでのラウンド体験に向けた練習の様子

企画・活動概要

我が国におけるゴルフ人口は減少の傾向にある。この影響を受ける形で、全国のゴルフ場の数やゴルフ場の延利用者数はゆるやかな減少傾向にある(図1)。兵庫県下のゴルフ場においてもその影響を例外なく受けており、近年いくつかのゴルフ場が閉鎖に追い込まれている。

本企画では、このようなゴルフ業界の現状を踏まえ、まずは地域住民がゴルフ場に関心を向けるきっかけとなるような、ゴルフ場施設を活用したユニークなスポーツの提案を目標に活動した。

本企画を進めるにあたって、兵庫県三田市に位置する有馬カンツリー倶楽部にご協力いただいた。具体的には、ゴルフ場運営の現状と喫緊の課題についての講義をしていただくとともに、実際にゴルフ場を訪問し、ゴルフ場内の施設見学、ならびにインストラクター指導のもとゴルフコースでのラウンド体験を実施した。

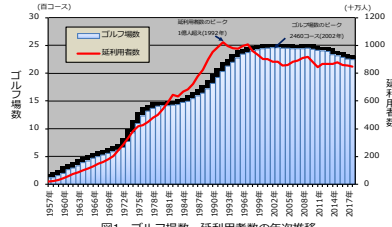


図1 ゴルフ場数、延利用者数の年次推移 (一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会 調べ)

経緯・背景・目的

ゴルフは老若男女を問わずプレーできる点で、サッカーや野球といった他の球技系スポーツとは異なった特徴を持つ。例えば、体力という点で圧倒的に優位に立つ20代の男性が、還暦を迎えた男性に負けることが実際に起こり得る。その他、ハンディキャップ制度や、同じコースであってもティーイングエリアの位置を調整することで、子供から大人まで同じルールのもと競い合うことができる点で生涯スポーツにふさわしい競技といえる。

しかしながら、多様な年代と一緒にプレーできるという特徴を備えているにもかかわらず、実際にゴルフに親しんでいる年齢層は50代・60代以上の男性が中心で、10代・20代の消費喚起が喫緊の課題となっている。

こうした現状を打破するべく、様々な取り組みをなされているのが有馬カンツリー倶楽部である。子供たちへのゴルフ教室(ザ・ファースト・ティー)や、大学ゴルフ授業の受講者を対象にコースデビューの機会を提供(Gちゃれ)するなど、ゴルフ業界の活性化に資する様々な取り組みを積極的に展開されている。今回は、ゴルフ場施設を活用したユニークなスポーツを考える際のアイデア収集の場として、ゴルフ場運営の現状と課題に関する講義とゴルフ体験の機会を設けていただくこととなった。

取り組み課題

若年層がゴルフ場に足を運ばない理由に、しばしばゴルフを始めるにあたっての金銭的コストが指摘される。一般的に、ゴルフ場でのプレーは休日もとなると1万円以上と高額である。そのため、熱心な愛好家を除けばゴルフ場に足を運ぶ回数は年に数回と限られる。その他にも、時間的コストの問題がある。そもそもゴルフ場でプレーするには、一定水準以上の技術を身につけていなければ難しい。しかし、一定水準以上の技術に到達するには相当の時間を練習に費やす必要がある。今回はこういったコストを踏まえ、まずはゴルフ場に足を運ぶきっかけとなるような、ゴルフというスポーツにとらわれないユニークなスポーツの提案を目標とした。

本学(学生)の役割

学生には、ゴルフ場運営の現状と課題について理解を深めることを求めた。また、実際にゴルフ場に足を運び、ゴルフの難しさを体験してもらった。そして、体験を通じて得られた学生一人ひとりの素朴な感覚から、ゴルフ場施設を利用したユニークなスポーツについて考えてもらった。

参加した学生14名(右写真)が考えたユニークなスポーツのアイデアについては、それぞれ共通の観点から集約するように求め、最終的に今回ご協力いただいた有馬カンツリー倶楽部に提案した。



当日参加した学生。ゴルフ体験に際して、日本ゴルフ用品協会よりゴルフクラブの無償提供を受けた。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回の企画では、最初にゴルフ場運営の現状や喫緊の課題について講義をしていただいた。人間健康学科の学生の中には、将来スポーツ関連企業への就職を希望する学生も多いため、ゴルフ業界の現状を知る良い機会になったのではないかと感じる。

また、お話を伺うだけでなく、実際に有馬カンツリー倶楽部へ訪問し、ゴルフ体験の機会を設けていただいた。ゴルフ場が保有する施設を見学させていただいたり、ゴルフコースでのラウンド体験をさせていただくなど、体験を通じてこれまで抱いていたゴルフに対する認識が変化したのではないかと感じる。

最後に、新しいスポーツを考えるということで学生一人ひとりに成果物の提出を求めた(図2)。成果物の出来栄については学生間ではばらつきがあったものの、それぞれ普段考えたことのない視点からスポーツを考えるきっかけになった点で良かったのではないかと考えている。

近畿大学社会科学部プログラム
ゴルフ場施設を利用した地域活性化に向けたニュースポーツの提案
提案者: 人間社会学部4年

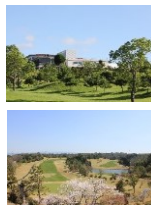
<p>①スポーツの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴルフ パターゴルフ ミニゴルフ ゴルフボールを使ったゲーム ゴルフボールを使ったゲーム ゴルフボールを使ったゲーム 	<p>②ターゲット</p> <ul style="list-style-type: none"> 18歳以上 男女別、15歳以上 ゴルフに興味がある人 ゴルフの経験がある人 ゴルフの経験がある人
<p>③参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> 10人以上 10人以上 10人以上 	<p>④開催するにあたっての留意</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる
<p>⑤実施するメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる 	<p>⑥開催するにあたっての留意</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる ゴルフ場を借りる

図2 学生が考えたニュースポーツの一例

指導教員および関係者の紹介



人間社会学部人間健康学科
専任講師 内田 遼介
2017年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士(人間科学)。2018年法政大学スポーツ研究センター客員研究員を経て、現在に至る。運動部活動場面の体罰問題について、心理学の観点から研究を行っている。日本心理学会、日本スポーツ心理学学会各会員。



新有馬開発株式会社
有馬カンツリー倶楽部
Webサイト: <http://www.arimacc.jp/>
昭和35年9月、会員制ゴルフ場として誕生。神戸大阪の中心部から約10分、神戸三田ICから5分という好立地にあり、オープン以来延べ200万人を超えるゴルファーに親しまれてきた。近年は、JLPGAの試合や女子プロテストの開催地として、女子ゴルファーたちの戦いのステージとしても有名。